

21. 修羅（しゅら）

修羅は、大きな石や石の棺をのせて運ぶ道具で、ソリに似ています。この修羅は藤井寺市の三ツ塚（みつづか）古墳の濠（ほり）で見つかったの。アカガシというとても硬い木を使っていて、長さはおよそ 8.8m、重さはなんと 3.2t もあります。一本の木が二股に分かれた所をうまく切り取っています。後ろにある小さな修羅も一緒に見つかったもので、こちらは、クヌギの木の二股に分かれた部分を使っているの。

修羅をよく見ると、いくつかの穴が開いているのが分かるかな？この穴にじょうぶな綱（つな）を通して、修羅をひっぱったの。1500 年前に使われていた修羅が、完全な形で見つかるなんてすごいことよね。

ここでクイズです。重い物をのせた修羅をひっぱるのはとても大変です。だから、古代の人たちは小さな力でも引っ張ることができるように工夫をしました。いったいどんな工夫だったのでしょうか？正解を聞きたい人は 71 番を押してください。

（71. クイズの答え）

古代の人たちは、修羅の下にコロと呼ばれる丸太を引いて、すべりやすくし、小さな力でも引くことができるよう工夫しました。仁徳天皇陵古墳の模型のなかで、修羅を引いているようすを再現しています。工夫のようすをみてみましょう。